

オスプレイの大阪空港への緊急着陸に抗議し、配備の撤回を求める（談話）

2019年4月2日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

昨日、沖縄の普天間基地所属の米海兵隊のMV22 オスプレイが大阪空港に緊急着陸しました。

またしても繰り返された緊急着陸に抗議し、世界に知られた欠陥機であるオスプレイの飛行を繰り返す米軍と、それを容認する安倍政権に対して厳重に抗議し、飛行の中止と配備の撤回を求めます。

オスプレイは、開発段階から重大な事故を繰り返し、これまでに40人以上の米兵の命を奪っています。死者が出るなどの重大事故「クラスA」の事故率は10万飛行時間あたり3.24で、米海兵隊全体の事故率2.74よりも高く、東京の横田基地に配備されている空軍CV22 オスプレイの事故率はさらに高い4.05とされています。

在日米軍配備のオスプレイは、2016年12月に沖縄県名護市安部の海岸近くに墜落事故を起こしたのをはじめ、2017年以降だけでも5回の緊急着陸を繰り返しています。また、千葉・木更津の工場に入ったオスプレイが整備に2年以上かかるという事態に構造上の欠陥があらためて指摘されています。

このような欠陥機の配備を続け、全国で飛行、訓練を行なわせ、国民の命と安全を脅かすことは断じて許されません。さらに安倍政権は、オスプレイ17機を購入して日本版海兵隊の輸送に当てようとしています。世界でただ1国、日本だけが欠陥機オスプレイを購入することは異常と言わなければなりません。

私たちは、在日米軍オスプレイの飛行中止と配備撤回と、自衛隊による購入を中止するよう強く求めます。

以上